

## 平成23年度緊急消防援助隊 地域ブロック合同訓練の実施状況（関東／九州ブロック）

### 応急対策室

先月号に引き続き、今月号では平成23年度緊急消防援助隊地域ブロック合同訓練のうち、関東ブロック合同訓練及び九州ブロック合同訓練の実施状況を各ブロック担当県等からの寄稿によりお知らせします。

## 平成23年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練について

### 長野県危機管理部消防課

平成23年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練は、新潟・岐阜県陸上部隊先遣隊も参加し長野県松本市及び塩尻市で、次のとおり実施しました。

#### 1. 実施日

平成23年11月1日（火）・2日（水）

#### 2. 実施場所

- (1) 消防応援活動調整本部設置・運営訓練（1日）  
長野県庁西庁舎3階「災害対策本部室」
- (2) 部隊運用訓練（2日）
  - ア 松本会場 長野県松本平広域公園大芝生広場及び周辺
  - イ 塩尻会場  
今泉南テクノヒルズ産業団地  
株式会社アイパークス所有地
  - イ 空港南トンネル
- (3) 野営訓練（1日）  
長野県松本平広域公園陸上競技場周辺及び総合球技場ふれあい広場

#### 3. 実施内容

- (1) 消防応援活動調整本部設置・運営訓練  
長野県緊急消防援助隊受援計画策定後初めての訓練で



トンネル多重衝突事故救出訓練（11月1日 塩尻会場）



土砂災害救出訓練（11月1日 松本会場）

あり、応援要請手続きを始めとする連絡体制、情報伝達要領を検証するため、参集訓練と図上訓練の一部をリンクさせて実施した。

また、関東ブロック各都県から選出された評価者には、自都県に対する受援県の対応を中心にチェックリスト方式で評価を依頼し、評価終了後は指揮支援部隊長も同席して意見交換会を実施した。

#### 《今後の課題等》

- 応援要請や応援部隊への情報伝達を的確に実施するため、電話とFAXを併用したが、地域衛星通信ネットワークを使用したFAXは、事前連絡の不徹底等により対応に一部混乱を生じた。  
確実な情報伝達のための通信機器の選択・通信要領・体制等について改めて見直す必要がある。
- 「消防応援活動調整本部設置運営訓練」の評価は、受援体制等の実効性を検証するために有効と考えるが、より適切な評価を実施するため、地域ブロック内に限らず全国で統一された「消防応援活動調整本部運営」要領等の策定を含めた運営体制等のあり方について検討することが必要である。



木造家屋倒壊事故救出訓練（11月1日 松本会場）

## (2) 参集訓練

第一次出動県隊（先遣隊含む）及び出動準備都県隊に対し、訓練想定等の一部を事前に明らかにしないセミブラインド型訓練として実時間で実施した。

また、参集時間短縮のため、長野県内に応援県隊の集結場所を設定した他、遠方から参集する県隊の一部を陸上自衛隊大型ヘリで搬送・投入した。

### 《今後の課題》

- 応援部隊が中隊規模未満で参集した場合、あるいは、陸上自衛隊航空機を活用した参集は、参集時間の短縮に有効であることが検証できたので、今後、応援計画等にどう反映させることができるか等、更なる時間短縮を図るための方策について検討する必要がある。

## (3) 部隊運用訓練

2会場（3か所）でのセミブラインド型訓練とし、参集から継続した活動を行う夜間訓練を含め実施した。また、長時間移動による隊員の疲労を考慮し、第1日目は先遣隊を中心に、第2日目は、出動準備都県隊を中心に配備する部隊構成とした。

### 《今後の課題》

- 指揮支援本部を管轄消防本部等に設け、既存の通信機器を活用した訓練、夜間訓練及び長時間活動を継続

した訓練を、今後も継続することが必要である。

- 同一現場に複数の都県隊が投入された場合のより有効な連携方法について、さらに検討していく必要がある。

## (4) 野営訓練

野営場所は、消防応援活動調整本部からの指示により指定して実施した。

後方支援部隊が先行し野営訓練準備を整えるなど、現着⇒活動⇒野営という実災害に即した形とした他、既存建物（体育館）を活用した宿営も実施した。

### 《今後の課題》

既存建物を利用することで、特に到着までに長時間を要する県隊の疲労軽減が期待できるため、テント型野営のみに偏らない受援ができるかどうかを検討していく必要がある。

## (5) 燃料補給訓練

被災地周辺での燃料補給が困難となることが想定されることから、より確実に迅速な消防応援体制が行えるよう消防庁配備の燃料補給車等から各消防本部が持参した燃料携行缶への補給を各野営会場で夜間訓練終了まで実施した。

### 《今後の課題》

- 燃料補給部隊の編成、被災地における燃料又は燃料供給拠点の確保について、全国規模でどのように構築していくのか十分に検討する必要がある。

## 4. おわりに

本訓練は、受援県における緊急消防援助隊の部隊運用や連携体制の重要性などの検証として大変有意義な訓練となりました。東日本大震災を受け、新たな訓練の試みを行いました。受援に備える姿勢の大切さを痛感しました。

今回の関東ブロック合同訓練は、天候にも恵まれ、各都県、参加消防本部、各協力機関の皆様の絶大なるご支援、ご協力により事故もなく実施することができましたことに、心から感謝申し上げます。

# 平成23年度緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練について

## 宮崎県危機管理局消防保安課

平成23年度緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練を、宮崎県宮崎市及び児湯郡高鍋町において、次のとおり実施しました。

### 1. 実施日

平成23年11月4日（金）・5日（土）

### 2. 実施場所

#### (1) 被災地初動対応訓練（4日）

宮崎県庁、宮崎市消防局、宮崎県東見湯消防組合消防

本部（以下、「東見湯消防本部」という。）

#### (2) 部隊集結訓練、部隊運用訓練【先遣隊・夜間】（4日）

宮崎市清武総合運動公園、東見湯消防本部

#### (3) 部隊運用訓練（5日）

宮崎市清武総合運動公園

### 3. 実施内容

宮崎県沖を震源とする最大震度6強の地震が発生し、さらに地震発生から30分後に到着した津波により宮崎県



消防応援活動調整本部運営訓練（11月4日 宮崎県庁）



橋梁崩落事故救出訓練（11月4日 宮崎市清武総合運動公園）

沿岸部全域が被災した。この地震及び津波により、宮崎市及び高鍋町で甚大な被害が発生しているとの想定で訓練を実施した。

#### (1) 被災地初動対応訓練

緊急消防援助隊の応援要請を行うとともに、消防応援活動調整本部（宮崎県庁）及び指揮支援本部（宮崎市消防局及び東児湯消防本部）を設置し、緊急消防援助隊の活動調整並びに部隊移動の指示等を実施した。

#### 《今後の課題等》

- 消防応援活動調整本部に派遣される消防本部職員の人数が不足していたため、今後、受援計画等において、体制の見直しが必要である。
- 消防応援活動調整本部に入ってくる情報を一元化し、的確に整理・伝達する手法について検討する必要がある。

#### (2) 部隊集結訓練、部隊運用訓練【先遣隊・夜間】

迅速出動の4県先遣隊を指揮支援部隊長の判断により、宮崎市と高鍋町にそれぞれ2県隊ずつ出動させ、被災地到着後、直ちに部隊運用訓練を実施した。

さらに、高鍋町に出動した2県先遣隊は、訓練終了後、宮崎市へ部隊移動させた。



座屈倒壊中高層建物救出訓練（11月5日 宮崎市清武総合運動公園）

また、夜間には、集結した全県隊による部隊運用訓練を実施した。

#### 《今後の課題等》

- 指揮支援隊長が被災地に到着するまでの緊急消防援助隊指揮支援本部の運用体制等について、検討する必要がある。

#### (3) 部隊運用訓練

指揮支援部隊（福岡市消防局）及び指揮支援隊（北九州市消防局、岡山市消防局）の部隊統制の下、地震及び津波災害を想定した各種訓練を全県隊により実施するとともに、自衛隊及びDMATと連携した訓練を行った。

また、市街地火災消火訓練では、火災現場に通じる橋が崩壊したとの想定で、陸上自衛隊により設置された架柱橋を消防車両が通過して消火活動を実施した。

#### 《今後の課題等》

- より実戦に即した訓練とするため、長時間に及ぶ過酷な状況での訓練想定としたが、活動を終了した県隊の応援出動のあり方、DMATの要請要領等を検討し、より実戦的な訓練としていく必要がある。

## 4. おわりに

今回の訓練は東日本大震災での活動を通じて得た教訓から、長時間であるとともに、より過酷な状況での活動を主眼として実施しましたが、参加隊員は最後まで高い士気を維持しながら活動し、また緊急消防援助隊の運用や関係機関との連携についても検証ができ、大変有意義な訓練となりました。今後は訓練の成果や課題をもとに、一人でも多くの命を救えるよう、より一層緊急消防援助隊の体制の強化に努めなければならないと考えております。

最後に、訓練の実施に多大なご協力を賜りました九州ブロック各県、各消防本部、岡山市消防局、陸上自衛隊、各県DMAT及びその他関係機関の皆様にご心から感謝申し上げます。また、東日本大震災により被災された皆様へ、心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。